

# **Systemwalker Centric Manager**

**12.1**



**S series**運用管理ガイド

J2X1-2710-01Z2(00)

---

# まえがき

## 本書の目的

本書は、Systemwalker Centric Manager 11.0とSun™ Management Center (以降、SunMCと略しています。)を連携させて使用する場合の機能概要、導入方法、および運用方法について説明しています。

## 本書の読者

本書は、Systemwalker Centric ManagerとSun™ Management Center を連携させて、監視業務を行われる方を対象としています。

本書をお読みになる前に、“Systemwalker Centric Manager 解説書”をお読みになり、Systemwalker Centric Managerの概要を理解しておく必要があります。

## 本書の構成

本書は、1章～4章、および付録から構成されています。

### 第1章 概要

Systemwalker Centric ManagerとSun™ Management Centerを連携した場合の機能概要について説明します。

### 第2章 環境

Systemwalker Centric ManagerとSun™ Management Centerを連携するために必要な環境について説明します。

### 第3章 導入

Sun™ Management Centerと連携する場合のSystemwalker Centric Managerの導入方法について説明します。

### 第4章 運用

Sun™ Management Centerとの連携方法について説明します。

### 付録A リファレンス

Systemwalker Centric Managerで使用するコマンドについて説明します。

## 本書の読み方

### コマンドで使用する記号について

コマンドで使用している記号について以下に説明します。

#### 記述例

[ PARA= { a b c } ]
---------------------

#### 記号の意味

記号	意味
[ ]	この記号で囲まれた項目を省略できることを示します。
{ }	この記号で囲まれた項目の中から、どれか1つを選択することを示します。

---

## マニュアルの記号について

マニュアルでは以下の記号を使用しています。



注意

特に注意が必要な事項を説明しています。



ポイント

知っておくと便利な情報を説明しています。

## 注意事項

本書では、Systemwalker Centric Managerのエディションで、Standard Editionを“SE”、Enterprise Editionを“EE”、およびGlobal Enterprise Editionを“GEE”と省略していますので、各エディションを読み替えてください。

## 略語表記について

Solaris™ Operating Environment上で動作するSystemwalker Centric Managerを“Solaris OE版Systemwalker Centric Manager”または“Solaris OE版”と略しています。

Solaris™ Operating Environment、HP-UX、AIX、Linux上で動作するSystemwalker Centric Managerを、“UNIX版 Systemwalker Centric Manager”または“UNIX版”と略しています。

Solaris™ Operating Environmentを“Solaris OE”と略しています。

HP-UX上で動作するSystemwalker Centric Managerを“HP-UX版 Systemwalker Centric Manager”または“HP-UX版”と略しています。

AIX上で動作するSystemwalker Centric Managerを“AIX版Systemwalker Centric Manager”または“AIX版”と略しています。

Linux上で動作するSystemwalker Centric Managerを“Linux版 Systemwalker Centric Manager”または“Linux版”と略しています。

## 輸出管理規制表記

当社ドキュメントには、外国為替および外国貿易管理法に基づく特定技術が含まれていることがあります。特定技術が含まれている場合は、当該ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。

平成16年 4月

平成15年12月 初版 平成16年 4月 1.1版
------------------------------

---

## 商標について

AIXは、IBM Corp.の商標です。

APC、PowerChuteは、AMERICAN POWER CONVERSION社の登録商標です。

Ethernetは、富士ゼロックス株式会社の登録商標です。

HP-UX、MC/ServiceGuardは、米国ヒューレットパカード社の登録商標です。

LANDesk はアメリカ合衆国及びその他の国におけるLANDesk Software Ltd. またはその子会社の商標または登録商標です。

Linuxは、Linus Torvalds氏の米国およびその他の国における登録商標あるいは商標です。

Microsoft、MS、MS-DOS、Windows、Windows NT、Visual BasicおよびMicrosoft Cluster Serverは、米国Microsoft Corporationの、米国およびその他の国における登録商標です。

ORACLEは、Oracle Corporationの登録商標です。

Red Hat、RPMおよびRed Hatをベースとしたすべての商標とロゴは、Red Hat, Inc.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。

TRENDMICRO、Trend Micro Control Manager、Trend Virus Control System、TVCS、InterScan、ウイルスバスター、INTERSCAN VIRUSWALL、eManagerは、トレンドマイクロ株式会社の登録商標です。

SMMは、米国インテル社の商標です。

Sun、Sun Microsystems、Sunロゴ、Solaris およびすべてのSolarisに関連する商標及びロゴは、米国およびその他の国における米国Sun Microsystems, Inc.の商標または登録商標であり、同社のライセンスを受けて使用しています。

Sun、SunClusterは、米国およびその他の国における米国Sun Microsystems, Inc.の商標または登録商標です。

Symantec、Symantecロゴ、Norton AntiVirusは、Symantec Corporationの米国における登録商標です。

Tcl/Tkは、カリフォルニア大学、サン・マイクロシステムズ社、Scriptics社他が作成したフリーソフトです。

Turbolinux及びターボリナックスは、ターボリナックス株式会社の商標又は登録商標です。

UNIXは、X/Openカンパニーリミテッドが独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

VERITAS、VERITAS SOFTWARE、VERITASロゴ、VERITAS Cluster Serverおよびその他のVERITAS製品は、米国および各国のVERITAS Software Corporationの商標または登録商標です。

UXP、Systemwalker、Interstage、Symfowareは、富士通株式会社の商標です。

VirusScanおよびNetShieldは、米国Network Associates社および関連会社の商標または登録商標です。

その他の製品名は、各社の商標または登録商標です。

Microsoft Corporationのガイドラインに従って画面写真を使用しています。

---

Portions Copyright © Contributors to ISODE Project  
Portions Copyright © 1983-1994 Novell, Inc., All Rights Reserved.  
JavaChart™ Copyright © 1996-1997 Visual Engineering, Inc. All Rights  
Reserved  
HashJava GNU Library General Public License  
All Rights Reserved, Copyright © 株式会社PFU 1995-2004  
All Rights Reserved, Copyright © 富士通株式会社 1995-2004  
Portions © 1994-1996 Attachmate Corporation. All Rights Reserved.

---

# 修正履歴

第1.0版：2003年12月22日から第1.1版：2004年4月19日への変更点

変更箇所	変更内容
3.3.1 Systemwalkerテンプレートを適用する	削除しました。

---

# 目次

第1章 概要.....	1
1.1 機能概要.....	2
第2章 環境.....	3
2.1 システム構成.....	4
第3章 導入.....	5
3.1 インストール.....	6
3.1.1 Systemwalker Centric Managerのインストール.....	6
3.1.2 Sun™ Management Centerのインストール.....	6
3.2 インストール後の設定.....	7
3.2.1 トラップ用ポート番号の変更.....	7
3.2.2 定義ファイルの設定.....	8
3.2.3 自ホスト名解決方法/ホスト名の変更.....	10
3.3 Sun™ Management Centerを監視する.....	16
3.3.1 イベント監視の条件定義の設定.....	16
第4章 運用.....	25
4.1 起動/停止.....	26
4.2 イベントのフォーマット.....	27
付録A リファレンス.....	31
A.1 Ssmcadpt.....	31
A.2 Psmcadpt.....	32

---

---



---

# 第1章 概要

Systemwalker Centric ManagerとSunMCを連携した場合の機能概要について説明します。

## 1.1 機能概要

SunMCは、Sun Microsystemsのハードウェア、およびソフトウェアの総合的な管理を行う製品です。

Systemwalker Centric Managerは、SunMCと連携することにより、SunMCサーバで検知されたアラームを、Systemwalker Centric Managerが監視するさまざまなイベントと合わせて統合的に監視することができます。

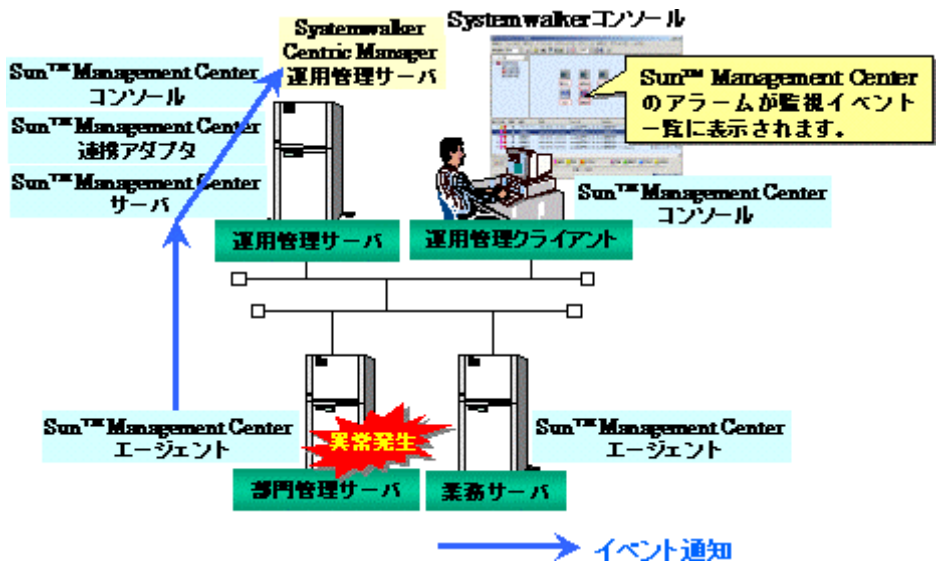
[Systemwalkerコンソール]から、以下の機能が可能になります。

- SunMCが検知したアラームを、[Systemwalkerコンソール]に表示することができます。

SunMCのアラームは、すべてSystemwalker Centric Managerに通知されます。また、アラームの中で重要なものだけをSystemwalker Centric Managerに通知することができます。

- SunMCでのアラームの解消が[Systemwalkerコンソール]に自動的に反映されます。

SunMCが検知したアラームが解消した場合、またはSunMCのコンソールでアラームを削除した場合は、[Systemwalkerコンソール]に表示されているイベントも自動的に対処済みになります。



なお、SunMC連携機能は、以下の環境では利用できません。

- クラスタシステム
- ホスト名をDNS名で運用しているシステム

---

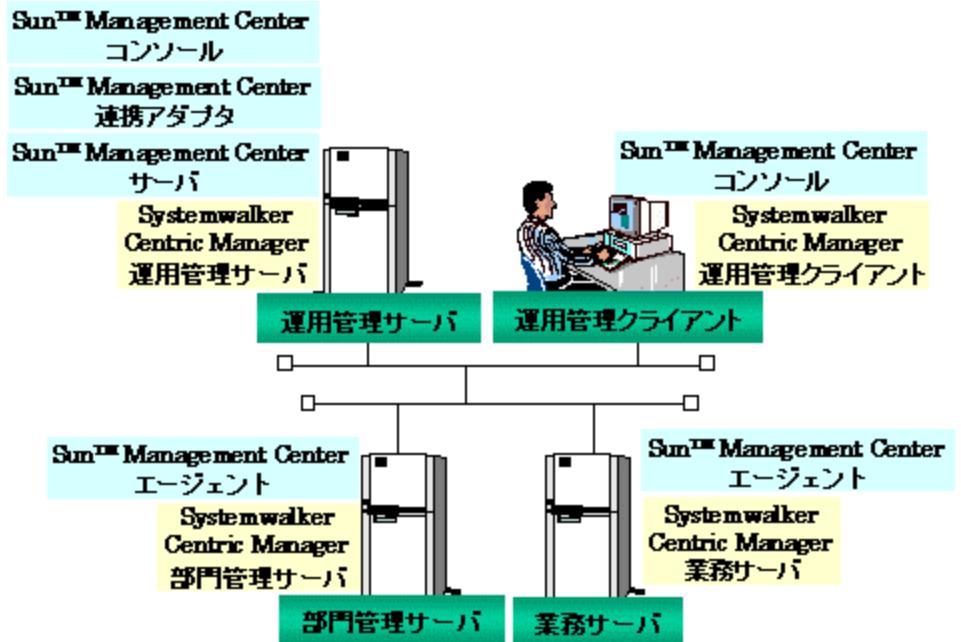
## 第2章 環境

Systemwalker Centric ManagerとSunMCを連携するために必要な環境について説明します。

---

## 2.1 システム構成

Systemwalker Centric ManagerでSunMCの監視を行う場合、構成は以下のようになります。



### ソフトウェア条件

インストール種別に応じて、それぞれに必要なソフトウェアをインストールしてください。

- 運用管理サーバ
    - Systemwalker Centric Manager (運用管理サーバ) SE/EE/GEE 11.0以降
    - Sun™ Management Center サーバ
    - Sun™ Management Center コンソール
    - Sun™ Management Center 連携アダプタ
  - 運用管理クライアント
    - Systemwalker Centric Manager (運用管理クライアント) SE/EE 11.0以降
    - Sun™ Management Center コンソール (注)
  - 部門管理サーバ
    - Systemwalker Centric Manager (部門管理サーバ) SE/EE 11.0以降
    - Sun™ Management Center エージェント
  - 業務サーバ
    - Systemwalker Centric Manager (業務サーバ) SE/EE 11.0以降
    - Sun™ Management Center エージェント
- (注): 詳細情報を確認し、対応を行う場合には、Sun™ Management Center コンソールが必要です。

---

## 第3章 導入

Systemwalker Centric Managerで、SunMCを監視する場合の導入方法、および設定方法について説明します。

## 3.1 インストール

Systemwalker Centric Manager、およびSunMCのインストール方法について説明します。

### 3.1.1 Systemwalker Centric Managerのインストール

運用管理サーバ、運用管理クライアント、各部門管理サーバおよび業務サーバにSystemwalker Centric Managerをインストールします。

インストール方法については、“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”を参照してください。

Systemwalker Centric ManagerでSunMCを監視する場合、DNS名をホスト名として使用することができません。すでに、Systemwalker Centric Managerの運用をDNS名で行っている場合、“3.2.3 自ホスト名解決方法/ホスト名の変更”の操作を行い、ホスト名に変更してください。

また、部門管理サーバおよび業務サーバに、Systemwalker Centric Managerをインストールする場合、ホスト名および自ホスト名解決方法を選択することができます。

ここでは必ず“ホスト名”を選択してください。

### 3.1.2 Sun™ Management Centerのインストール

SunMCサーバ、SunMCコンソール、およびSunMC連携アダプタを、運用管理サーバにインストールします。

SunMCエージェントを、各部門管理サーバ/業務サーバにインストールします。

SunMCサーバ、SunMCコンソールおよびSunMCエージェントのインストール方法については、SunMCのマニュアルを参照してください。

また、SunMC連携アダプタは、Systemwalker技術情報ホームページで提供しております。

Systemwalker技術情報ホームページから、以下の“Sun™ Management Center 連携アダプタ”をダウンロードし、インストールを行います。

fjsvsmcal.pkg
---------------

インストール方法については、SunMC連携アダプタに添付されているreadmeを参照してください。

## 3.2 インストール後の設定

Systemwalker Centric Managerのインストール後に行う以下の設定について説明します。

- トラップ用ポート番号変更
- 定義ファイルの設定
- 自ホスト名解決方法/ホスト名の変更

### 3.2.1 トラップ用ポート番号の変更

SunMCが使用するトラップ用ポート番号を確認し、“162”の場合は、別の値に変更してください。ポート番号“162”は、Systemwalker Centric ManagerのSNMPトラップで使用します。

SunMCサーバまたは、SunMCエージェントがインストールされているすべてのサーバのポート番号を変更します。

/var/opt/SUNWsymon/cfg/domain - config.xファイルを以下のように変更します。

#### /var/opt/SUNWsymon/cfg/domain - config.xファイルの変更

SunMCサーバ、SunMCエージェントがインストールされているサーバの設定ファイルを編集します。

#### ◆ 記述形式

“TRAP = ”で始まるブロック内の“snmpPort”に指定する値を変更します。未使用のポート番号を指定してください。

#### ◆ 使用例

SunMCが使用するトラップ用ポート番号を“11162”に変更します。

```
TRAP = {  
    TrapServer = "hostname"  
    snmpPort = "11162"  
}
```



注意

SunMCサーバのセットアップ時に、trap.snmpPortの値の変更を求められることがあります。セットアップ中に値を変更した場合は、すでに“162”以外になっています。

## 3.2.2 定義ファイルの設定

運用管理サーバで、`/etc/opt/FJSVsmcal/dfsmcalm.ini`ファイルにSunMC連携の情報を設定します。

### `/etc/opt/FJSVsmcal/dfsmcalm.ini`の設定

#### ◆ 記述形式

[SunMC]ブロックに以下の形式で、連携用のユーザアカウントや連携用のポート番号を指定します。

```
[SunMC]
uid=ユーザアカウント
psw=パスワード
server=ホスト名
port=ポート番号
```

#### ◆ オプション

uid=ユーザアカウント：

SunMCサーバのインストール時に指定した、Sun™ Management Center スーパーユーザのアカウントを指定します。

psw=パスワード：

SunMCサーバのインストール時に指定した、Sun™ Management Center スーパーユーザのログインパスワードを指定します。

server=ホスト名：

SunMC連携アダプタをインストールしたサーバのホスト名を指定します。通常はデフォルトの値“localhost”を使用してください。

port=ポート番号：

SunMCサーバのポート番号を指定します。SunMCのインストール時にポート番号を変更していない場合は、デフォルトの値“2099”を使用してください。

#### ◆ 注意事項

- このファイルには、rootの読み取り権が与えられています。
- `/etc/hosts`には、“localhost 127.0.0.1”がデフォルトで記述されています。“localhost”の定義が記述されているか確認してください。
- ここで指定するポート番号は、SunMCのRMI用ポート番号です。`/var/opt/SUNWsymon/cfg/domain - config.x`ファイルのSunMCが使用するトラップ用ポート番号とは異なります。



◆ 使用例

```
[SunMC]
uid=SunMC
psw= SunMC
server= localhost
port=2099
```

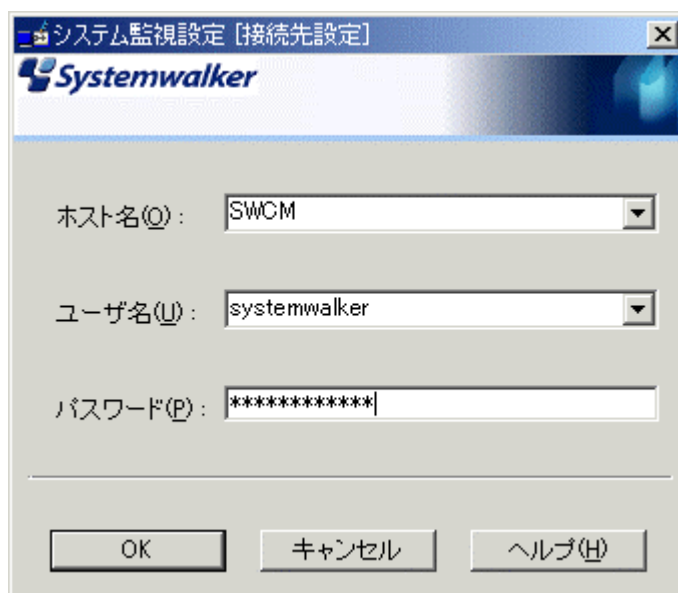
### 3.2.3 自ホスト名解決方法/ホスト名の変更

SunMCのアラームをSystemwalker Centric Managerで監視する場合、Systemwalker Centric Managerへ登録するホスト名としてDNS名を使用することができません。

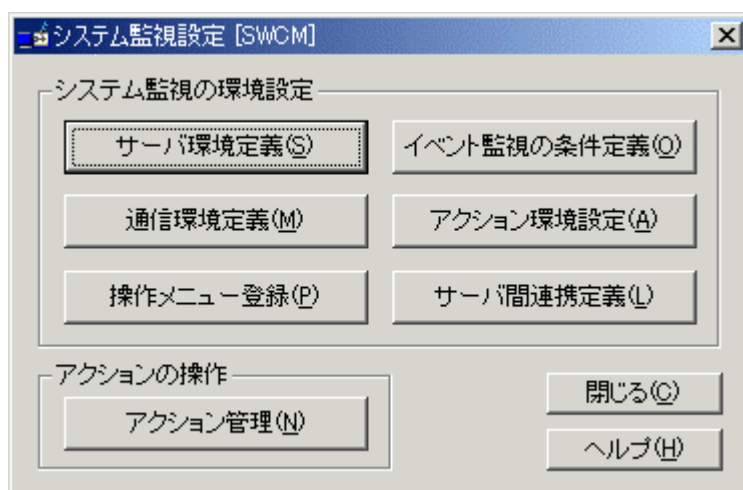
すでに、Systemwalker Centric Managerの運用をDNS名で行っている場合、運用管理サーバ、およびSunMCエージェントがインストールされているすべての部門管理サーバ/業務サーバに対して以下の設定を行ってください。

## 自ホスト名解決方法を変更する

1. 運用管理クライアントで、[Systemwalker Centric Manager] - [環境設定] - [システム監視設定]を選択します。  
[システム監視設定[接続先設定]]ダイアログボックスが表示されます。

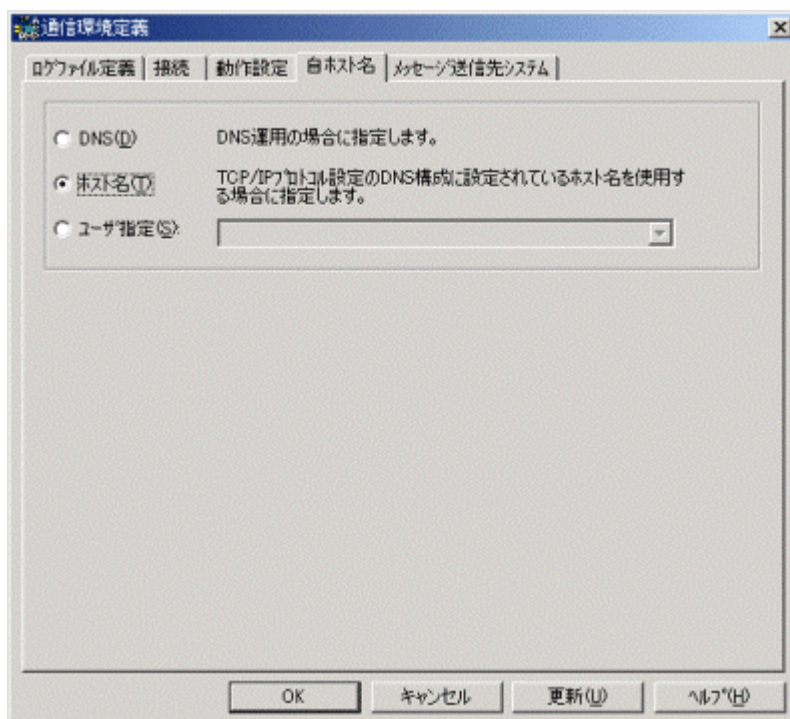


2. 対象サーバの[ホスト名]、[ユーザ名]、[パスワード]を入力し、[OK]ボタンをクリックします。  
[システム監視設定]ウィンドウが表示されます。

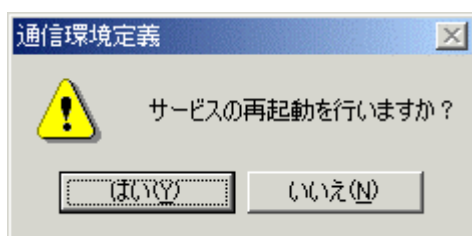


3. [通信環境定義]ボタンをクリックします。

[通信環境定義]ダイアログボックスが表示されます。



4. [自ホスト名]タブを選択します。  
[ホスト名]を選択し、[OK]ボタンをクリックします。  
[通信環境定義]メッセージボックスが表示されます。



5. [いいえ]ボタンをクリックします。

## ホスト名を変更する

Systemwalker Centric Managerで、ホスト名変更に必要な設定手順について説明します。なお、システムの構成およびインストール種別/使用している機能によって設定が異なります。

ここでは、以下の場合について説明します。

- 運用管理サーバのホスト名を変更する
- 部門管理サーバ/業務サーバのホスト名を変更する



注意

運用管理サーバ以外の種別も同時に変更する場合は、上位サーバから順にホストの変更手順を実施してください。

### ◆ 運用管理サーバのホスト名を変更する

運用管理サーバのホスト名の変更手順を以下に示します。

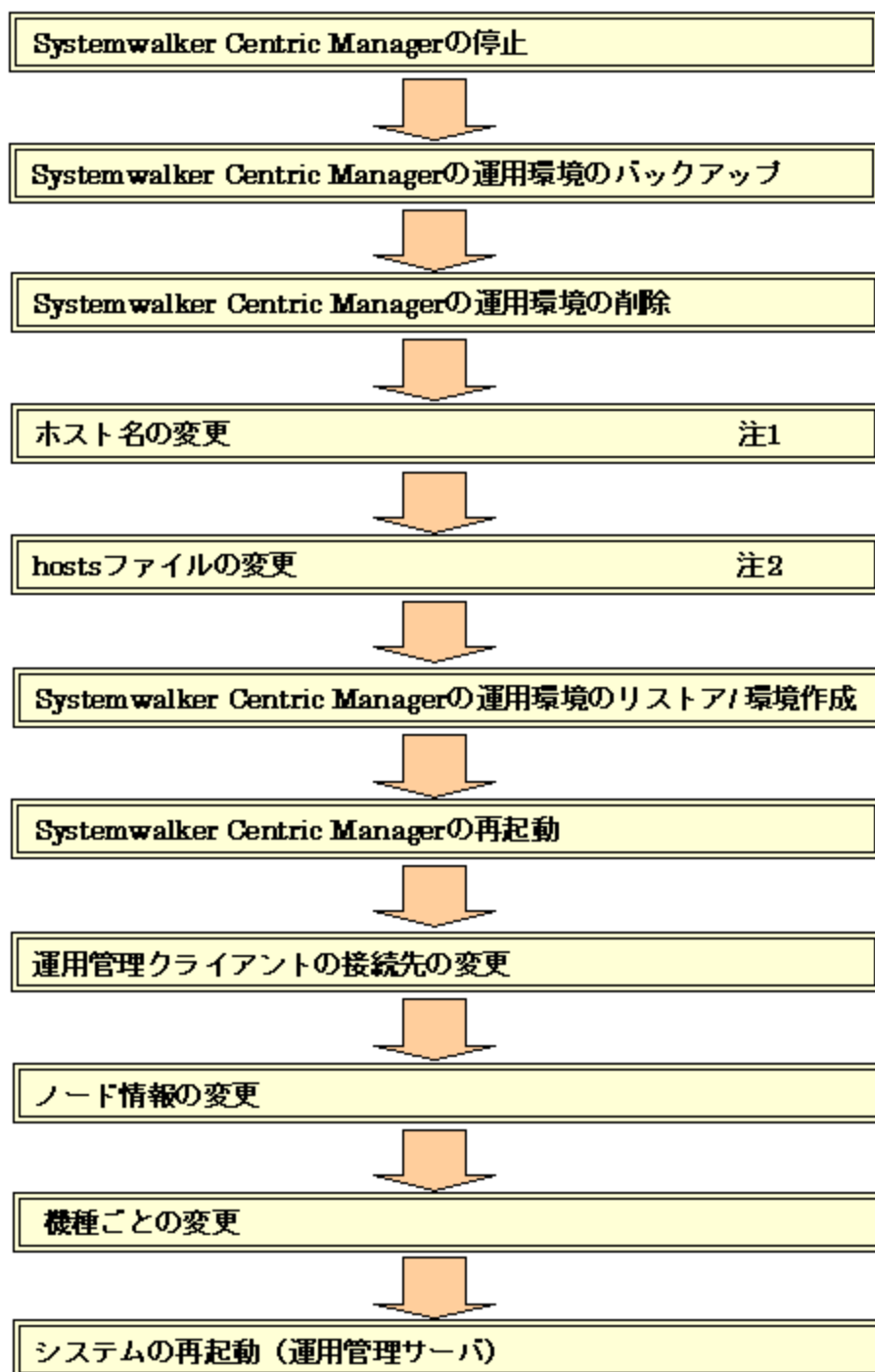
各設定の詳細内容については、“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”を参照してください。



#### 注意 SunMC連携時のバックアップ情報

Systemwalker Centric Managerの資源をバックアップリストアコマンドで、退避/復元する場合は、SunMC連携にかかわる以下の定義ファイルは退避されません。別途、退避/復元してください。

- /etc/opt/FJSVsmcal/dfsmcalm.ini
- /etc/opt/FJSVsmcal/work.ini

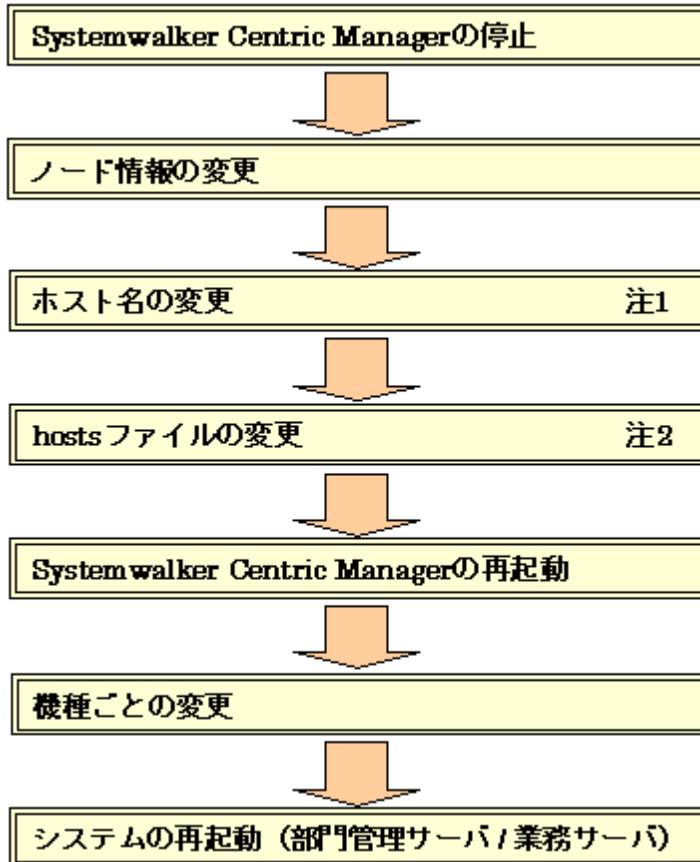


注1：“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”の“IPアドレスの変更”を設定する必要はありません。

注2：“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”の“DNSの変更”を設定する必要はありません。

◆ 部門管理サーバ/業務サーバのホスト名を変更する

部門管理サーバ/業務サーバのホスト名の変更手順を以下に示します。  
各設定の詳細内容については、“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”を参照してください。



注1：“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”の“IPアドレスの変更”を設定する必要はありません。

注2：“Systemwalker Centric Manager 導入手引書”の“DNSの変更”を設定する必要はありません。

## 3.3 Sun™ Management Centerを監視する

SunMCが通知したアラームをSystemwalker Centric Managerで監視する方法について説明します。

SunMCの異常を監視する場合、SunMCから出力されるメッセージを、イベント監視の条件定義で設定する必要があります。

設定方法については、“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編”を参照してください。

Systemwalker技術情報ホームページで提供しているSystemwalkerテンプレートを適用することで、重要なSunMCのメッセージを自動的に設定し、SunMCの異常を監視することができます。

Systemwalkerテンプレートの適用に関する詳細は、“Systemwalker Centric Manager 入門ガイド イベント監視編”、およびSystemwalkerテンプレートに添付されているreadmeを参照してください。

必要に応じて、システム管理者にメールで通知するなどのアクションを設定してください。アクションの設定方法については、“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編”を参照してください。

また、Systemwalkerテンプレートを適用しない方法で監視する場合は、“3.3.1 イベント監視の条件定義の設定”を参照してください。

### 3.3.1 イベント監視の条件定義の設定

Systemwalkerテンプレートを適用しない方法で監視する場合は、以下のようにイベント監視の条件定義を設定します。

イベント監視の条件定義を設定することにより、SunMCのアラームは、すべてSystemwalker Centric Managerに通知されます。

また、監視したい重要なアラームだけを絞り込んで表示する方法や、そのほかの設定方法については、“Systemwalker Centric Manager 使用手引書 監視機能編”を参照してください。



## 監視イベント種別の登録

SunMCから通知されたアラームを、監視イベント種別“SunMC”のメッセージとしてSystemwalker Centric Managerに通知する場合、[サーバ環境定義]ダイアログボックスで、監視イベント種別“SunMC”を登録する必要があります。

以下の手順で設定を行い登録します。

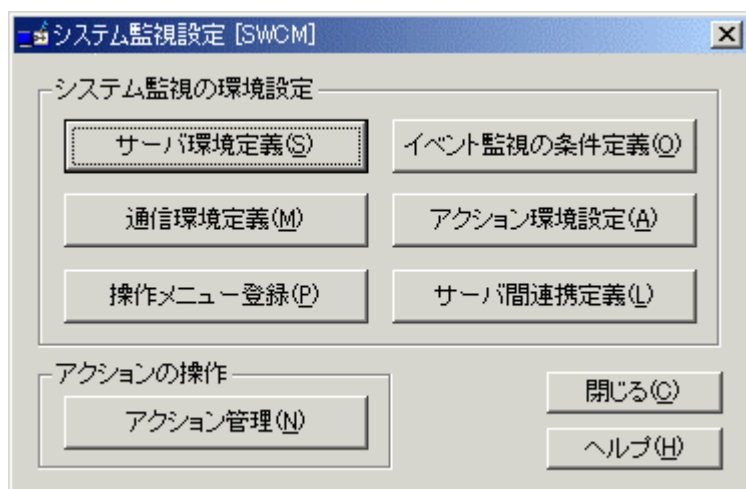
1. 運用管理クライアントで、[Systemwalker Centric Manager] - [環境設定] - [システム監視設定]を選択します。

[システム監視設定[接続先設定]]ダイアログボックスが表示されます。

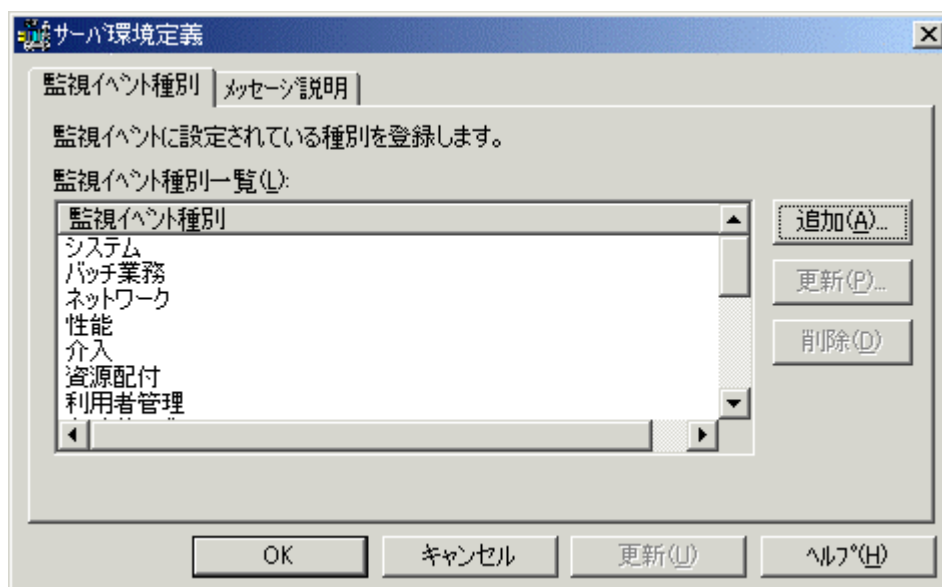


2. 運用管理サーバの[ホスト名]、[ユーザ名]、[パスワード]を入力し、[OK]ボタンをクリックします。

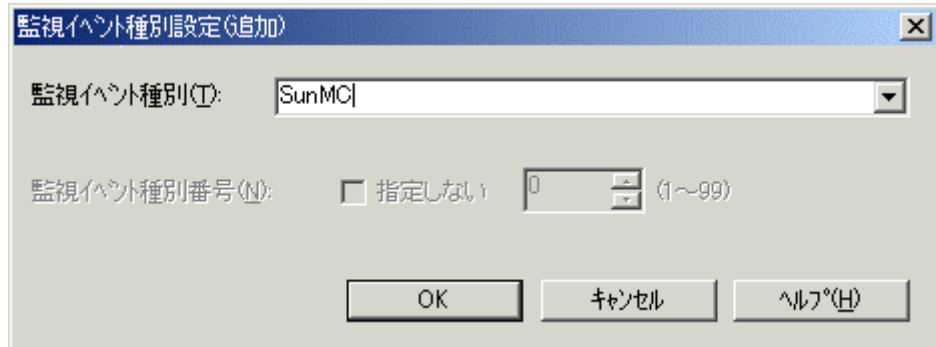
[システム監視設定]ウィンドウが表示されます。



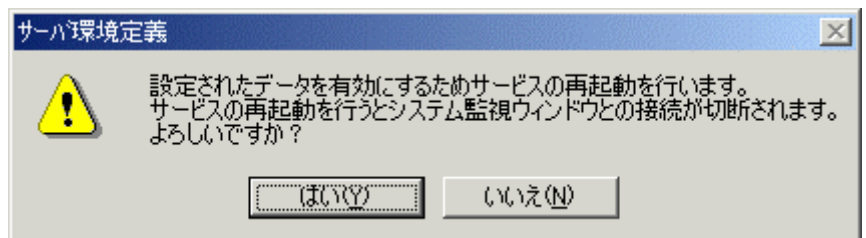
3. [サーバ環境定義]ボタンをクリックします。  
[サーバ環境定義]ダイアログボックスが表示されます。



4. [監視イベント種別]タブを選択し、[追加]ボタンをクリックします。  
[監視イベント種別設定(追加)]ダイアログボックスが表示されます。



5. [監視イベント種別]に“ SunMC ”と入力し、[OK]ボタンをクリックします。  
[サーバ環境定義]ダイアログボックスが表示されます。
6. [OK]ボタンをクリックします。  
[サーバ環境定義]メッセージボックスが表示されます。



7. [はい]または[いいえ]ボタンをクリックし、Systemwalker Centric Managerのサービスを再起動してください。



#### ポイント Systemwalker Centric Managerの再起動

監視イベント種別の登録で、サービスの再起動を行わなかった場合、以下のコマンドからSystemwalker Centric Managerを再起動してください。

- 1) 以下のコマンドを実行し、Systemwalker Centric Managerを停止します。

**[Windows版の場合]**

```
pcentricmgr
```

**[Solaris OE版の場合]**

```
/opt/systemwalker/bin/pcentricmgr
```

- 2) 以下のコマンドを実行し、Systemwalker Centric Managerを起動します。

**[Windows版の場合]**

```
scentricmgr
```

**[Solaris OE版の場合]**

```
/opt/systemwalker/bin/scentricmgr
```

## イベント監視の条件定義の設定

以下の手順で設定を行い、SunMCから通知されるアラームを、[Systemwalker コンソール]の監視イベント一覧に通知します。

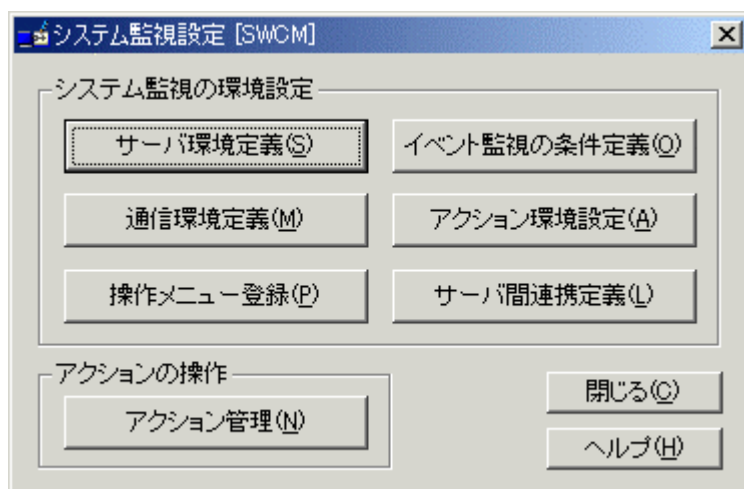
1. 運用管理クライアントで、[Systemwalker Centric Manager] - [環境設定] - [システム監視設定]を選択します。

[システム監視設定[接続先設定]]ダイアログボックスが表示されます。

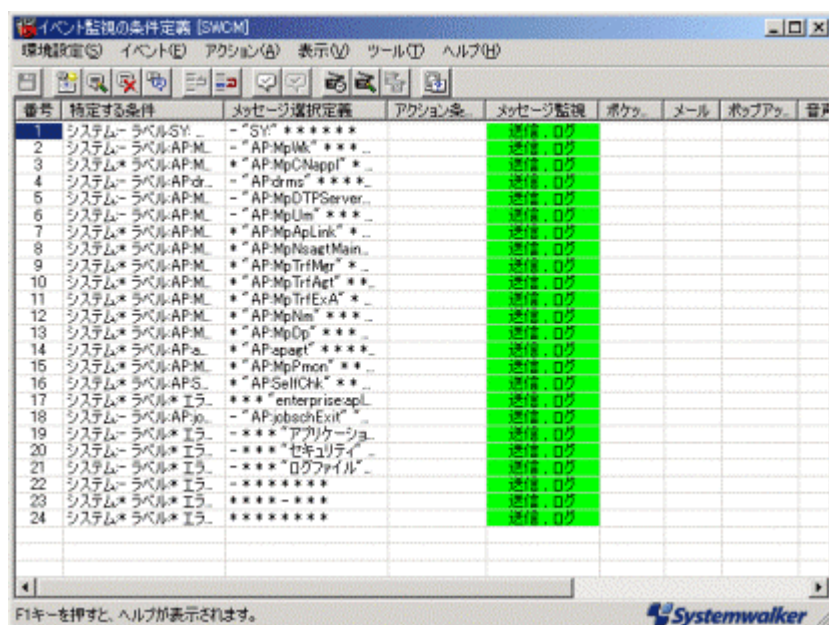


2. 運用管理サーバの[ホスト名]、[ユーザ名]、[パスワード]を入力し、[OK]ボタンをクリックします。

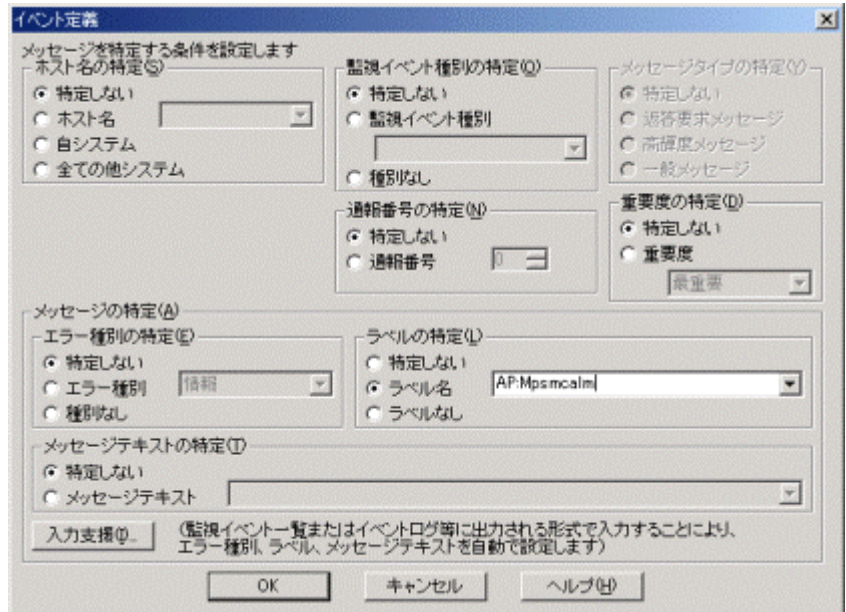
[システム監視設定]ウィンドウが表示されます。



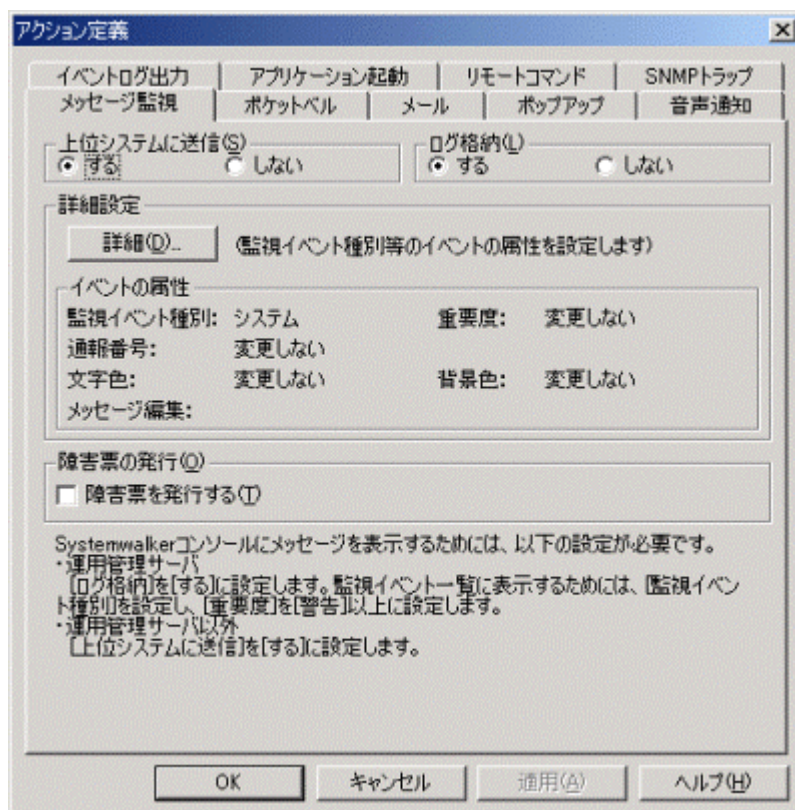
3. [イベント監視の条件定義]ボタンをクリックします。  
[イベント監視の条件定義]ウィンドウが表示されます。



4. [イベント]メニューから[イベントの追加...]を選択します。  
[イベント定義]ダイアログボックスが表示されます。

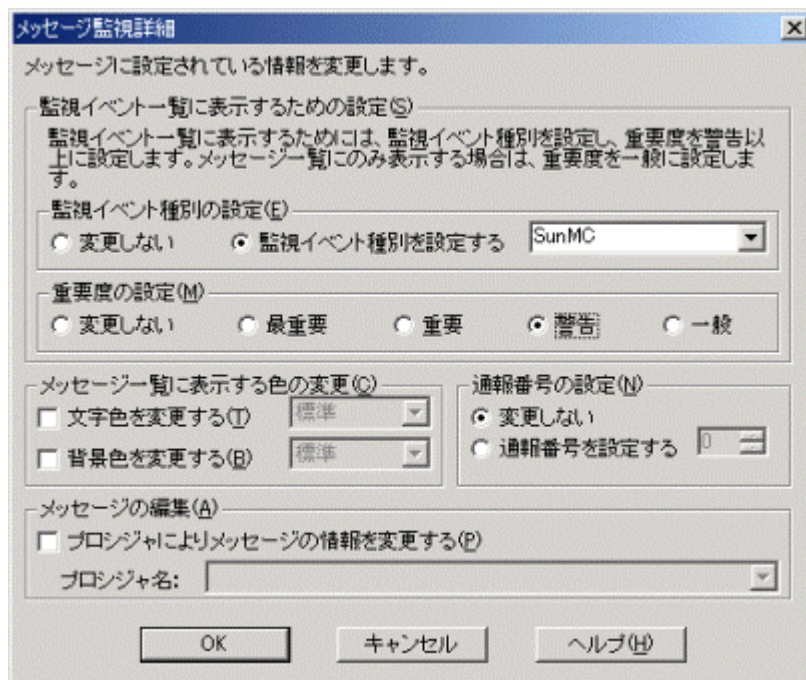


5. 以下の項目を指定し、[OK]ボタンをクリックします。  
     [ラベルの特定]  
     [ラベル名]を選択し、“AP:Mpsmcalm”と入力します。
6. [イベント監視の条件定義]ウィンドウで追加したイベントを選択し、  
     [アクション]メニューから[アクションの設定...]を選択します。  
     [アクション定義]ダイアログボックスが表示されます。



7. [メッセージ監視]タブを選択し、以下の項目を指定します。
  - [上位システムに送信]  
[する]を選択します。
  - [ログ格納]  
[する]を選択します。
  - [詳細...]ボタンをクリックします。  
[メッセージ監視詳細]ダイアログボックスが表示されます。





8. 以下の項目を指定し、[OK]ボタンをクリックしてください。
  - [監視イベント種別の設定]  
[監視イベント種別を設定する]を選択し、コンボボックスで“SunMC”を選択します。
  - [重要度の設定]  
[警告]を選択します。
  - [アクション定義]ダイアログボックスが表示されます。
9. [OK]ボタンをクリックします。
10. [環境設定]メニューから[定義の保存]を選択します。



注意

監視イベント種別は、必ず[監視イベント種別を設定する]を指定してください。[変更しない]を指定すると、SunMCのアラームが[Systemwalkerコンソール]の監視イベント一覧に表示されません。



---

## 第4章 運用

SunMCとの連携方法について説明します。

---

## 4.1 起動/停止

SunMC連携機能は、Systemwalker Centric Managerの起動時には、起動/停止されません。

運用管理サーバのSunMCサーバおよび、Systemwalker Centric Managerを起動後、運用管理サーバでコマンドを実行し、SunMC連携機能を起動/停止します。コマンドの詳細については、“付録A リファレンス”を参照してください。

## 4.2 イベントのフォーマット

[Systemwalker コンソール]の監視イベント一覧に表示されるSunMCのイベントのフォーマットを以下に示します。

<b>AP:Mpsmcalm:</b>	<b><u>%エラー種別%</u></b>	<b>：</b>	<b><u>RULE=%ルール ID%</u></b>	<b><u>TIME=%発生日時%</u></b>
	(1)		(2)	(3)
	<b><u>TEXT=%説明テキスト %</u></b>		<b><u>OBJ.URL=%オブジェクト URL%</u></b>	
	(4)		(5)	
	<b><u>R.GROUP=% ルールグループ %</u></b>			
	(6)			

図：SunMCイベントフォーマット

表：メッセージ構成要素

No	項目名	意味
(1)	エラー種別 (注)	[Systemwalker コンソール]の監視イベント一覧に表示されるイベントのエラー種別
(2)	ルールID	SunMCが通知するアラーム発生原因のルールID
(3)	発生日時	SunMCでアラームが発生した日時
(4)	説明テキスト	SunMCが通知するアラーム説明テキスト
(5)	オブジェクトURL	SunMCが通知するアラーム発生元オブジェクトURL
(6)	ルールグループ	SunMCが通知するアラーム発生原因のルールが属するグループ

注：[Systemwalker コンソール]の監視イベント一覧に表示されるエラー種別は、Sun™ Management Centerから通知されるアラーム重要度により異なります。

SunMCコンソールの[詳細]ウィンドウで、イベントのフォーマットの構成要素(1)～(4)との対応を以下に示します。



図：SunMCコンソール[詳細]ウィンドウ

SunMCコンソールの[属性エディタ]ウィンドウで、イベントのフォーマットの構成要素(5)との対応を以下に示します。

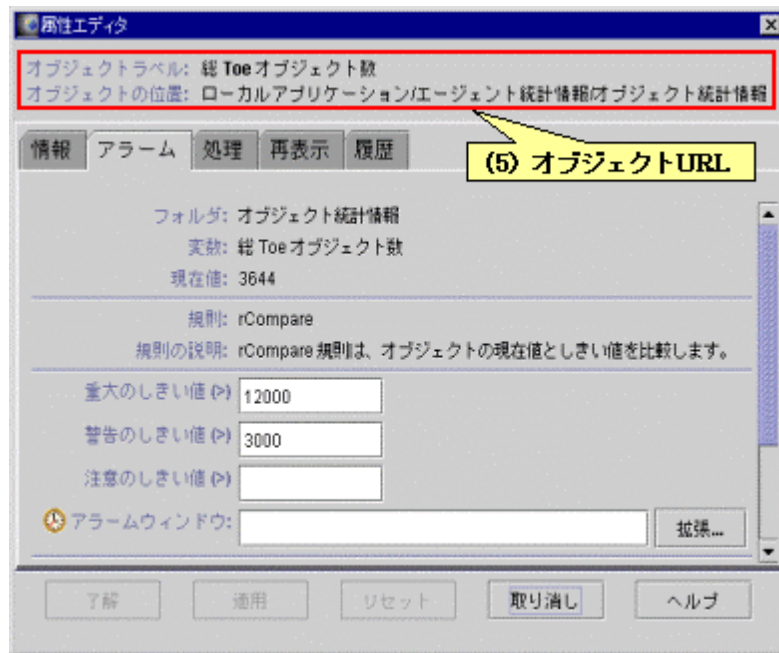


図 : SunMCコンソール[属性エディタ]ウィンドウ

## SunMCのアラーム重要度とSystemwalker Centric Managerのエラー種別

SunMCのアラーム重要度とSystemwalker Centric Managerのエラー種別の対応は、以下のとおりです。

SunMCのアラーム重要度		Systemwalker Centric Managerのエラー種別
値	意味	
DWN	停止	エラー
ERR	重大	エラー
WRN	警告	警告
INF	注意	情報
DIS	無効	情報

## 付録A リファレンス

Systemwalker Centric Managerで使用するコマンドについて説明します。

### A.1 Ssmcadpt

#### 機能説明

SunMC連携機能を起動します。

#### コマンド格納場所

/opt/systemwalker/bin/

#### 記述形式

```
Ssmcadpt
```

#### 参照

Psmcadpt

#### 実行に必要な権限

root権限が必要です。

#### 使用例

SunMC連携機能を起動します。

```
/opt/systemwalker/bin/Ssmcadpt
```

## A.2 Psmcadpt

### 機能説明

SunMC連携機能を停止します。

### コマンド格納場所

/opt/systemwalker/bin/

### 記述形式

```
Psmcadpt
```

### 参照

Ssmcadpt

### 実行に必要な権限

root権限が必要です。

### 使用例

非同期処理で、SunMC連携機能を停止します。

```
/opt/systemwalker/bin/Psmcadpt
```